かやっ子

与謝野町立加悦小学校　研究推進委員会
令和２年１１月３０日号

自ら考え、かかわり、挑戦する児童の育成
～言葉を通した確かな学び～

「固有種が教えてくれること」

先日、５年１組で研究授業を行いました。前回の２年１組の授業から、「本文の言葉や文章を根拠とした考えをもたせよう」「ペアやグループ活動を取り入れ、学習を広げていこう」ということを確認しました。このことを受け、５年生では、「本文にたくさんの資料が使われているが、その意図や効果は何だろう？」という学習課題に対して、「グループ交流」や「全体交流」をとおして、その答えについて考えました。常に「本文のどの言葉や文からそう考えたのか？」と意識しながら読むことができ、このように根拠をもとに考える学習は、他教科でも大事にしていきたいです。

まずは個々で「資料の意図や効果」について読み取った後、「資料グループ」で交流し、資料の効果について話し合います。

ニホンノウサギ

アマミノクロウサギ

次に、「資料グループ」で話し合ったことを「学習グループ」に持ち寄って、「資料の意図や効果」について考えます。

さらに、全体で交流することで、「なぜ筆者はたくさんの資料を使ったのか」という学習課題を解決していきます。

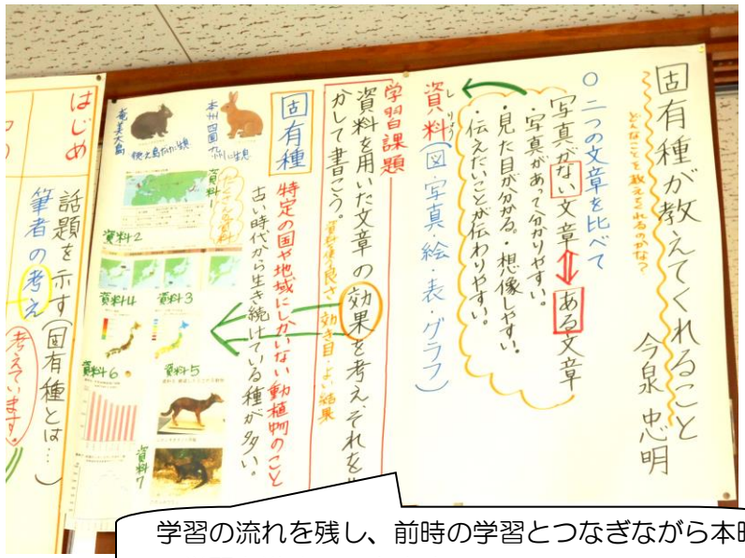
一人一人の考えをつなぎ、最後はみんなで課題解決ができました。学び合いの多い学習となり、課題に対する答え（まとめ）ができたとき、「いえーい！」と拍手する子もいました。充実感、達成感の表れです。

～豆知識～

ハーバードメン研究とよばれる研究によると、幸せな人生を送っている人の共通点は「良好な人間関係」だそうです。身勝手な人が、思いやりのある人たちに囲まれることはありません。良好な人間関係を築くためには、*「人を愛する能力」*を伸ばしてあげることだそうです。「人を愛する能力」は「オキシトシン」というホルモンが関係しているそうで、このオキシトシンの濃度が上がると、「人間好きになる」「対人不安が減る」「親切になる」「共感力が上がる」　→　思いやりがあって誠実でみんなから愛されるようになる　→　良好な人間関係がつくれるようになる　→　幸せな人になる。幸せな人生になる・・・というわけです。

オキシトシンを分泌するには、スキンシップ、心温まる映画、動物とのふれあい（ぬいぐるみもOK）、親切・・・だそうです。「親切」は、大人が手本を見せる（気持ちのいい行動を目にする）ことで、オキシトシンが分泌されるということです。大人の言動は、とても大事になりますね。

「情けは人のためならず」といいますが、人を思いやることで、最終的に一番幸せになるのは「自分」。子どもが幸せな人生を歩むためにも、人を思いやることを、大人の言動を通して伝えていきたいですね。



学習の流れを残し、前時の学習とつなぎながら本時の学習を進めていきます。

「個々の読み取り」→「グループでの検討」→「各グループの考えをみんなのものに」という学習の流れは、他の学習にも生かせそうです。